

10 英語英文学科（2021（令和3）年度以後入学者）

英語英文学科専門科目の履修

英語英文学科生は、表 10-1 にしたがって、自学科専門科目の必修科目を 28 単位、選択科目を 30 単位以上、合計で 58 単位以上修得しなければならない。

なお、自学科専門科目を 59 単位以上修得した場合、58 単位を超えた分は選択科目（自由選択科目）（73 ページ）として卒業に必要な単位に数えることができる。

表 10-1 英語英文学科専門科目表

区分	年次	科目名	単位	
必修科目	1	Listening & Speaking a, b	各 2	4 必修
		Performance Workshop a, b	各 2	4 必修
		Presentation Workshop a, b	各 2	4 必修
	2	Academic Presentation a, b	各 2	4 必修
		Communicative Grammar a, b	各 2	4 必修
	3	ゼミナール I a, I b	各 1	2 必修
	4	ゼミナール II a, II b	各 1	2 必修
卒業論文			4	4 必修
必修科目の単位数合計			28	
選択科目	1	イギリス文学入門	2	いずれか 6 必修
		アメリカ文学入門	2	
		英語学入門	2	
		英語音声学入門	2	
		児童文学入門	2	
		異文化間コミュニケーション入門	2	
		2	Communication Skills I-1a, 1b, 2a, 2b, 3a, 3b, 4a, 4b, 5a, 5b, 6a, 6b	
	3	Communication Skills II-1a, 1b, 2a, 2b, 3a, 3b, 4a, 4b, 5a, 5b, 6a, 6b	各 2	4 必修
	1~4	国際文化交流	2	いずれか 4 必修
		英語特別演習（短期語学研修）1a, 1b	各 2	
	2~4	比較文学 1,2	各 2	4 必修
	3・4	英語圏比較文化	2	
		異文化間コミュニケーション 1a, 1b, 2a, 2b	各 2	
		英語特別演習（テンブル大学）8-1, 8-2	各 6	
	2	児童文学概論	2	いずれか 4 必修
		イギリスの歴史と文化	2	
		アメリカの歴史と文化	2	
		演劇概論 a, b	各 2	
		イギリス文学概論 a, b	各 2	
		アメリカ文学概論 a, b	各 2	
		英語学概論 a, b	各 2	
	3・4	英語圏文化 1, 2	各 2	4 必修
英語圏文学		2		

区分	年次	科目名	単位	
選択科目	2	英米文学基礎演習 1a, 1b, 2a, 2b	各 2	いずれか 4 必修
		児童文学基礎演習 a, b	各 2	
		演劇基礎演習 a, b	各 2	
		英語学基礎演習 1a, 1b, 2a, 2b, 3a, 3b	各 2	
		英語教育学基礎演習 a, b	各 2	
		翻訳基礎演習 1a, 1b, 2a, 2b	各 2	
		翻訳演習 1a, 1b, 2a, 2b	各 2	
	3・4	イギリス文学演習 1a, 1b, 2a, 2b	各 2	いずれか 4 必修
		アメリカ文学演習 1a, 1b, 2a, 2b	各 2	
		児童文学演習 a, b	各 2	
		演劇演習 a, b	各 2	
		英語学演習 1a, 1b, 2a, 2b, 3a, 3b	各 2	
		英語教育学演習 a, b	各 2	
		英語学演習 a, b	各 2	
選択科目で修得すべき単位数			30 以上	
修得すべき単位数合計（必修+選択）			58 以上	
※下記の「選択科目」は、卒業に必要な「選択科目」のうち「自学科選択科目」にあたる。				
選択科目	1	Academic Skills for Study Abroad	2	4 必修
		発音クリニック 1a, 1b	各 1	
	1~4	発音クリニック 2a, 2b	各 1	
		英語特別演習（資格英語）2a, 2b	各 2	
		英語特別演習（e-learning）3a, 3b	各 2	
	2	英語特別演習（英検対策講座）4	2	
		英語特別演習（TOEFL 対策講座）5	2	
		英語特別演習（TOEIC 対策講座）6	2	
		英語特別演習（IELTS 対策講座）7	2	
		Academic Writing a, b	各 2	
		SAS a, b	各 2	
	2~4	英語史	2	
		日英対照言語学 a, b	各 2	
		通訳 a, b	各 2	
上級英語特別演習 a, b		各 2		
プレゼンテーション特別演習		2		

必修科目の履修上の注意

1. 1年次の必修科目のうち「Listening & Speaking a, b」「Performance Workshop a, b」「Presentation Workshop a, b」は、クラス分けをして行われる。クラスは、入学時のプレイズメント・テストの結果により決定し、ガイダンス期間中に配布する資料により発表する。a, bは基本的に1年を通して連続して受講するべきであり、事情があって後期にクラス変更を希望する場合は学科主任に申し出て許可を得なければならない。
2. 2年次必修科目の「Academic Presentation a, b」および「Communicative Grammar a, b」は、クラス分けをして行われる。クラスは、1年次後期に行われるプレイズメント・テストの結果により決定し、ガイダンス期間中に配布する資料により発表するので、このプレイズメント・テストを欠席しないようにすること。a, bは基本的に1年を通して連続して同一クラスを受講するべきであり、事情があって後期にクラス変更を希望する場合は学科主任に申し出て許可を得なければならない。
3. 留学など特別な事情がない限り、3年次に必修科目の「ゼミナール I a, I b」の単位を修得しなければならない。2年次の後期にゼミ説明会および希望調査を行うので、必ずこれに出席して履修希望調査アンケートを提出すること。
3年次に長期留学などの特別な理由で履修できなかった者は、4年次に「ゼミナール I a, I b」を「ゼミナール II a, II b」と並行履修しなければならない。
4. 4年次に必修科目の「ゼミナール II a, II b」と「卒業論文」の単位を修得しなければならない。

選択科目の履修上の注意

1. 表 10-1 にある年次は、授業内容の程度を示すもので、当該年次の学生のみが履修するという意味ではない。原則としては、各自の年次の科目および下級年次の科目を履修する。上級年次の科目を履修することも可能であるが、その場合には必ず学科主任と相談したのち、担当教員の許可を受けること。
2. 科目の中には、講義内容が異なっている場合には、別の年度に再度履修し単位を修得できる科目がある。時間割の「令和4年度英語英文学科開講科目」を参照すること。なお、再度履修可能科目の登録にあたっては、担当教員の指示に従うこと。
3. 「イギリス文学入門」「アメリカ文学入門」「英語学入門」「英語音声学入門」「児童文学入門」「異文化間コミュニケーション入門」（各2単位）は1年次の選択必修科目である。これらのうち、いずれか3科目6単位を修得しなければならない。
ただし、教職課程を履修して中学校・高等学校の英語の教員免許を取得する場合は、このうち「イギリス文学入門」「アメリカ文学入門」「英語学入門」「英語音声学入門」の計4科目8単位を履修し単位を修得しなければならない。
4. 「Communication Skills I-1a, I-1b～I-6a, I-6b」は2年次の選択必修科目である。前後期連続した2科目4単位を2年次に修得しなければならない。履修についてはガイダンス期間中に希望調査を行って学科で履修できるクラスを決定し、発表する。
教職課程を履修している場合、Communication Skills Iは指定クラスのCommunication Skills I-1a, 1bもしくはI-2a, 2bを履修しなければならない。
5. 「Communication Skills II-1a, II-1b～II-6a, II-6b」は3年次の選択必修科目である。前後期連続した2科目4単位を3年次に修得しなければならない。
4年次で、再度Communication Skills IIの履修を希望する場合は、すでに履修したクラスとクラス番号が異なるものでなければならない。
教職課程を履修している場合は、指定クラスのCommunication Skills II-1a, 1bもしくはII-2a, 2bを履修しなければならない。また、留学した場合でも、これらのクラスは読み替えの対象にならず、帰国後に履修しなければならない。
6. 「国際文化交流」「英語特別演習（短期語学研修）1a, 1b」（1～4年次）、「比較文学 1, 2」（2～4年次）、「英語圏比較文化」「異文化間コミュニケーション 1a, 1b, 2a, 2b」「英語特別演習（テンプル大学）8-1, 8-2」

(以上いずれも3・4年次)のうち、いずれか2科目4単位を履修し単位を修得しなければならない。

7. 「児童文学概論」「イギリスの歴史と文化」「アメリカの歴史と文化」「演劇概論 a, b」「イギリス文学概論 a, b」「アメリカ文学概論 a, b」「英語学概論 a, b」(以上いずれも2年次)、「英語圏文化 1, 2」「英語圏文学」(以上いずれも3・4年次)のうち、いずれか2科目4単位を履修し単位を修得しなければならない。
8. 2年次生対象の基礎演習は、履修できる単位数に上限がある。
 - ① 2年次生は、「英米文学基礎演習 1a, 1b, 2a, 2b」「児童文学基礎演習 a, b」「演劇基礎演習 a, b」「英語学基礎演習 1a, 1b, 2a, 2b, 3a, 3b」「英語教育学基礎演習 a, b」「翻訳基礎演習 1a, 1b, 2a, 2b」のうち、前後期連続した2科目を8単位まで履修できる。履修についてはガイダンス期間中に希望調査を行って学科で履修できるクラスを決定し、発表する。
 - ② 基礎演習は2年次生優先で履修者を決定するが、クラスに空きがある場合は、3・4年次生でも担当教員の許可を得て履修できる。その場合も、1年間に4単位が上限となる。
9. 3・4年次生の演習は、履修できる単位数に上限がある。
 - ① 3年次生は、「翻訳演習 1a, 1b, 2a, 2b」「イギリス文学演習 1a, 1b, 2a, 2b」「アメリカ文学演習 1a, 1b, 2a, 2b」「児童文学演習 a, b」「演劇演習 a, b」「英語学演習 1a, 1b, 2a, 2b, 3a, 3b」「英語教育学演習 a, b」のうち、2科目4単位まで履修できる。
 - ② 4年次生は、①に示した科目のうち、さらに2科目4単位まで履修することができる。
10. 「英語特別演習(短期語学研修) 1a, 1b」は、単位修得が可能な語学研修に参加し、所定の成績を修めた学生に対し単位が与えられる科目である。※令和4年度は、新型コロナウイルスの感染動向により状況が変わり得るため、以下の原則の限りではない。
 - ① 夏の語学研修に参加する場合は4月に「英語特別演習(短期語学研修) 1a」を登録すること。
 - ② 春休みに実施される語学研修に参加する場合は、「英語特別演習(短期語学研修) 1b」を登録すること。これは後期追加登録期間にも登録することができる。
 - ③ 夏の研修、春の研修いずれの場合も、参加する可能性がある場合は予定が確定していなくても履修登録をしておくこと。登録期間中に登録をしなかった場合、単位を修得することはできない。
 - ④ 卒業年次生は、卒業直前の春休みに実施される語学研修で単位を修得することはできないため、単位修得を希望する場合には4月に「英語特別演習(短期語学研修) 1a」を登録し、夏の語学研修に参加すること。ただし、夏の研修であっても、現地の状況によっては実施できない場合があるため、卒業必要単位には数えないでおくこと。
 - ⑤ 同じ研修先であっても再度参加することができ、所定の成績を修めれば単位が与えられる。詳細は、ガイダンス、掲示およびWeb上のシラバスを参照すること。
11. 「英語特別演習(資格英語) 2a, 2b」は、以下の公開テストの資格試験で所定の成果をあげた学生に対し、単位が与えられる科目である。aは前期に、bは後期に登録すること。各期において一度にひとつの資格試験を対象とする。すなわち2つ以上の資格試験を同時期に受けた場合でも、単位は2単位しか与えられない。ただし再度履修し、再度単位を修得することができる。その際には別の資格試験を受験して所定の成果をあげた場合、または同じ資格試験で修得済みの成果以上の成果をあげた場合に限る。詳細は以下のとおりである。
 - ① 実用英語検定1級・準1級、英検 S-CBT 準1級に合格した者。2022年度に行われる検定で所定の級に合格した場合、または本学在学中で2021年度に実施された検定で所定の級の合格証明書をすでに取得している場合には本年度の単位が与えられる。ただし、aは2022(令和4)年7月20日(水)17時までに、bは2023(令和5)年1月20日(金)17時までに、合格証明書が学務課へ提出された場合に限られる。再度履修し、単位を再度修得する場合には、修得済みの級よりも上級の試験に合格しなければならない。
 - ② TOEFL iBT 61点以上を取得した者。2022年度に行われる TOEFL iBT で所定の点数以上を取得した場合、または本学在学中で2021年度に実施されたテストで所定の点数以上をすでに取得している場合には本年度の単位が与えられる。ただし、aは2022(令和4)年7月20日(水)17時までに、bは2023(令和5)年1月20日(金)17時までに、証明書が学務課へ提出された場合に限られる。再度履修し、単位を再度修得する場合には、修得済みの点数より10点以上高い点数を取得しなければならない。
 - ③ TOEIC L&R(公開テストに限る。TOEIC IPは対象外)で750点以上を取得した者。2022年度に行われる TOEIC で所定の点数以上を取得した場合、または本学在学中で2021年度に実施されたテストで所定の点数以上を

すでに取得している場合には本年度の単位が与えられる。ただし、aは2022（令和4）年7月20日（水）17時までに、bは2023（令和5）年1月20日（金）17時までに、証明書が学務課へ提出された場合に限られる。再度履修し、単位を再度修得する場合には、修得済みの点数より50点以上高い点数を取得しなければならない。

- ④ IELTS・CD IELTSで総合4.5以上かつWriting4.5以上を取得した者。2022年度に行われるIELTSで所定の点数以上を取得した場合、または本学在学中で2021年度に実施されたテストで所定の点数以上をすでに取得している場合には本年度の単位が与えられる。ただし、aは2022（令和4）年7月20日（水）17時までに、bは2023（令和5）年1月20日（金）17時までに、証明書が学務課へ提出された場合に限られる。再度履修し、単位を再度修得する場合には、修得済みの点数よりそれぞれ0.5以上高い点数を取得しなければならない。

12. 「Academic Skills for Study Abroad」は留学準備講座である。履修にはTOEFL ITP 400点相当の英語力が必要となり、初回授業でスコアを確認する。また、初回授業で抽選を行うので、履修希望者は必ず出席すること。
13. 「発音クリニック 1a, 1b, 2a, 2b」はクラス分けをして行われる。初回授業で抽選を行うので、履修希望者は必ず出席すること。
14. 「SAS a, b」は、学科主任の許可を得た場合のみ受講が可能となる、一部の必修科目の代替科目である。受講希望者は、履修登録に間に合うように、希望する理由と代替したい科目を明示し、何らかの公的な証明書（診断書も可）を添えて、学科主任に面談を申し込む必要がある。
15. 同一年度に「a」「b」を連続して登録すべき科目があるので注意すること。詳細はWebでシラバスを参照すること。
16. 本学科に学士入学した者は、1・2年次の自学科専門科目は、すべて自学科の選択科目として扱う（表10-1参照）。また基礎演習や3・4年次対象の演習は各年次一定数のみ履修できるという制約（「選択科目の履修上の注意」9および10参照）を課さない。

卒業論文

- 卒業論文については、80ページ「卒業論文、卒業プレゼンテーションの手続き」で定めてあるところに従う。
- 卒業論文は、4年次に、大学生活4年間の集大成として全員が執筆する。全員が日本語または英語で書き、口述試験を受ける。口述試験には英問英答が含まれる。
- 卒業論文の審査に合格した場合、「卒業論文」の4単位を修得できる。
- 卒業論文のテーマを中間報告しなければならない。指導教員と相談した上でテーマを決定し、所定の用紙に記入して指導教員が押印したものを、執筆年度の英語英文学研究室に提出する。
- 英語英文学の卒業論文は、英語英文学科にふさわしいテーマ設定で、かつ以下の条件を満たしていなければならない。

<日本語で執筆する場合>

- 原則として20,000字以上とし、上限を30,000字とする。A4判2枚程度の英文要約をつける。署名をして、期限までに2部を学務課に提出する。後日行われる口述試験を受けること。
- 20,000字に満たない場合、A4版1枚程度の英文要約を入れる。署名をして、期限までに1部を英語英文学研究室に提出する。後日行われる口述試験を受けること。
- 4,000字に満たない場合、または字数を満たしていてもレベルに達していない場合は1月中に再提出する。再提出が遅れた場合、または未提出の場合は不合格（単位認定不可）となる。再提出の卒業論文については口述試験を行わない。

<英語で執筆する場合>

- 原則として7,000語以上とし、上限を10,000語とする。A4判2枚程度の和文要約をつける。署名をして、2部を学務課に提出する。後日行われる口述試験を受けること。
- 7,000語に満たない場合、A4判1枚程度の和文要約をつける。署名をして、期限までに1部を英語英文学

研究室に提出する。後日行われる口述試験を受けること。

③1,500語に満たない場合、または語数を満たしていてもレベルに達していない場合は1月中に再提出する。

再提出が遅れた場合、または未提出の場合は不合格（単位認定不可）となる。再提出の卒業論文については口述試験を行わない。

6. 卒業論文の作成に際しては英語英文学科の「卒業論文作成の手引き」を参照すること。
7. 卒業論文は、4年次の12月下旬の所定期日までに、本人が学務課に提出する。病気等の事情により本人が提出できない場合はその旨を学科主任に伝え、代理提出の許可を得る。
8. 未完成の卒業論文は一切受け付けない。
9. 卒業論文の提出期限は厳格に守られなければならない。提出期限に遅れた「卒業論文」の評価は不合格（単位認定不可）となる。
10. 口述試験は1月中に行う。英問英答を含む。卒業論文と口述試験の両方によって成績評価が行われ、評価方法はルーブリックによる。
11. 卒業論文は、提出後の書き直しを原則的には認めないが、誤植などの軽微なミスについては認める。その場合、口述試験の2週間後を再提出期限とする。

その他

1. 1年次の必修科目に単位未修得のものがある場合、原則として長期留学に出願することはできない。
2. 国外留学規程により海外の大学等へ留学した者は、帰国後1か月以内に、留学先の大学で学んだ内容について、A4判・ダブルスペースで3枚程度に英語でまとめて、英語英文学科研究室へ提出しなければならない（手書き不可）。
3. 資格取得希望者は、諸資格課程の履修要項（163ページ～）を参照すること。
4. 「Performance Workshop a, b」「Presentation Workshop a, b」「演劇基礎演習 a, b」「演劇演習 a, b」の履修者は、2022（令和4）年12月の第1土曜日に開催される“Seisen Fringe Festival: A Celebration of Speech and Drama in English”に参加すること。
5. 「Listening & Speaking a, b」の履修者は前期と後期の最終授業時に行われる“Seisen English Dictation Contest”に参加すること。
6. 「Academic Presentation a, b」の履修者は、2023年1月に行われる“Seisen English Presentation Jubilee”に参加すること。